

◇大学院 経済情報研究科 主要科目の特長

科目	特長
税務会計研究A	法人税法の基礎概念の習得と利益計算の基礎を習得する。特に、企業会計上の利益と法人税法上の所得の違いを確認し、企業会計上の利益から法人税法上の所得を導く過程を重要な概念を中心に学習する。
税務会計研究B	法人税法の基礎概念の習得と利益計算の基礎を習得する。特に、企業会計上の利益と法人税法上の所得の違いを確認し、企業会計上の利益から法人税法上の所得を導く過程を重要な概念を中心に学習する。
情報システム研究A	生活や社会の至る所にコンピュータが存在し、コンピュータ同士が自律的に連携して動作することにより、人間の生活を強力にバックアップする情報環境として、ユビキタスコンピューティングが注目されている。本講義では、ユビキタスコンピューティングにおけるさまざまな情報システムの技術について学び、ユビキタスコンピューティングにより実現されるユビキタス社会の本質を明らかにすることを目標とする。
情報システム研究B	人間とコンピュータが深くかかわる今日の情報システムがいかに重要か、価値のある存在かは、システムが障害を起こしたり、利用できなくなったりする度に強く認識させられる。また、社会生活のクリティカルな部分を担えば担うほど、その安全性・信頼性・頑強性が強く求められる。本講義では、情報システムの開発と運用において、システムの信頼性を導く開発手法ならびに運用方法を学び、情報システムにとって何が重要かを明らかにすることを目標とする。
理論経済研究A	今回の講義テーマは「マクロ経済学のミクロ的基礎づけ」である。'80年代以降、従来のケインズ経済学的マクロ均衡に対して厳しい批判の対象となったミクロ的行動仮定や市場での競争形態などの前提を再検討し、その後展開された独占的競争、取引費用、外部性、誘因両立性などのトピックを通して、新古典派、ポスト・ケインズ派、新しいケインズ派などの学派間の対立、論争をサーベイし、市場経済へのより説得的で明確なアプローチを探る。

◇大学院 経済情報研究科 主要科目の特長

科目	特長
理論経済研究B	<p>日本経済は1980年代後半に起こったバブル景気が90年代初頭には崩壊・終焉し、不良債権の処理と円高不況に襲われ未曾有の「デフレ」に10年(あるいは20年)間悩まされている。この間金融政策は超低金利、量的緩和政策の基調にあったが、こうした政策発動もむなしく、いまなお厳しいデフレ不況にある。今世紀に入ると、その原因と対策をめぐって、活発な議論が巻き起こり、それをまとめた研究書が次々と出版された。この講義では、そのデフレ不況を実証的に解析した研究書を取り上げ、全体を概観する一歩である。</p>
地域経済研究A	<p>地域経済に関する日本語のテキスト、論文を輪読します。</p>
地域経済研究B	<p>地域経済に関する英語文献(Regional Studyなどの専門雑誌の英語論文)を読み、英語に慣れるとともに、海外の都市政策について学びます。</p>
特別研究(論文指導)	<p>研究目的に沿った修士論文の作成</p>